



「ひ素」は、体にどんな害があるの

「ひ素」は、使い方によっては毒薬になる

「ひ素」は、ガラス製造や消毒剤・殺虫剤の製造、コンピュータの半導体の製造などに、はば広く使われている薬品です。

しかし、毒性が強く、体内にちく積されやすい性質があり、使い方をまちがえると、口や皮ふ、鼻や気管支などの気道から、人間の体に吸収されて、げりやはき気を起こしたりします。

また、「ひ素」やその薬品でつくられたものにふれると、皮ふがんや皮ふえんを起こしますし、肺がん・かんこうへんなどの病気の原因となったりします。

そのため、昔は毒薬として使われたり、毒ガスの原料としても使われていました。

また、昔、ひ素をとっていた鉱山による汚染が、公害として問題となっている場所もあります。

「慢性ひ素中毒しょう」というのは

「ひ素中毒」というのは、ひ素という薬品やその薬品でつくられたものが、人間の体に吸収されることによって起こる、上のようなしょう状や病気のことです。

また、慢性とは、病気が長く続く状態のことで、「慢性ひ素中毒しょう」というのは、ひ素中毒の状態が長く続いていることをいいます。（監修・保志 宏）

